慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	まえがき
Sub Title	
Author	霜崎, 實(Shimozaki, Minoru)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2007-03
Jtitle	リサーチメモ. 翻訳論プロジェクト2006年度論文集 (A search into language and beyond : challenges in translation studies). ,p.i-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0302-0000-0581--003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

まえがき

本論文集は、政策・メディア研究科大学院の「翻訳論プロジェクト」および学部の「翻訳分析演習」の2006年度の研究成果をまとめたものである。

構成は、第1部（共同研究）と、第2部（個人研究）からなる。第1部では、今年度の翻訳分析演習で取り上げた サン=テグジュペリの *Le Petit Prince* と6名の翻訳者（内藤濯・山崎庸一郎・池澤夏樹・藤田尊潮・河野万理子）による邦訳6編を言語資料として選択し、＜誤訳とその周辺＞を巡って、共同研究を行った。翻訳者はしばしば「演奏者」に喩えられることがある。原典を解釈し、自分のなかに構築した作品世界を、別の言語に転換する作業に携わっているわけだが、特に文学作品の翻訳においては、作品の意味世界を移行するのみならず、作品のスタイルまでも翻訳することが要求される。この意味では翻訳者は単なる「黒子」としての存在ではなく、「演奏者」としての存在として力量を発揮することが求められるのである。こうした立場から、翻訳者がともすると標準から逸脱した翻訳を行っているところに、その個性が現れているのではないかという想定のもとに、いわゆる誤訳も含めて、その周辺を探索することによって、翻訳作品の特徴を明らかにしようとしたものである。

第2部は個人研究の成果をまとめたもので、今回は4名の執筆者の投稿論文を掲載している。菅原論文「*Le Petit Prince* とその英日訳における『視点』の考察」では、原典における視点の取り方が、英訳と邦訳においてどのように再構成されているのかを検証したものである。松本論文「日本語における無生物主語を伴う他動詞表現 —『キタ・セクスアリス』を中心に —」は、森鷗外の作品を言語資料とし、無生物主語の他動詞構文の使用状況を分析したものである。佐伯論文「『星の王子さま』における発話表出方法 — 邦訳と日本語の関係 —」は、英訳と邦訳を言語資料として、発話表出理論に基づいて発話の分析を行い、邦訳の特徴を明らかにしようとしたものである。葦沢論文「『星の王子さま』の日英訳における会話表現の研究」は話法の違いから見た日英語の特徴を探ったものである。

論文としての完成度は必ずしも十分とは言えないものの、執筆者が言語と翻訳の問題に真摯に向き合い、考察した結果をまとめ上げた点を評価していただければ幸いである。また、未熟さゆえの思わぬ思い違いや言葉足らずの表現が含まれている可能性が多々あるが、この点については、ご叱正を乞う次第である。

翻訳論プロジェクトの論文集を過去3年にわたり刊行してきたが、今回で4冊目の論文集となる。編集にあたり、政策・メディア研究科大学院修士課程2年の菅原久佳君と松本裕介君、総合政策学部4年の鈴木陽子君の尽力があった。ここに記して、感謝の意を表したい。

2007年2月

霜崎 實